

平成28年度第2回川崎市上下水道事業経営審議委員会会議録

1 開催日時

平成28年11月14日（月）15:00～17:00

2 開催場所

川崎市産業振興会館9階 第3研修室

3 議題

- (1) 「上下水道ビジョン」(案) について
- (2) (仮称) 「上下水道事業中期計画」(素案) について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

4 出席者

(1) 委員会委員（敬称略）

磯貝和敏、小泉明（委員長）、長岡裕、中野英夫、西川雅史、岩瀬純己、梶ヶ谷雪香、庄司幹夫

(2) 上下水道局職員

上下水道事業管理者、総務部長、経営管理部長、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長、下水道部長、下水道部担当部長（下水道施設）、担当部長（調整担当）、庶務課長、経営企画課長、財務課長、財務課担当課長（下水道財務）、サービス推進課長、水道計画課長、下水道計画課長、担当課長（調整担当）ほか

5 傍聴者

1名

6 会議内容

以下のとおり

事務局 定刻となりましたので、平成28年度第2回川崎市上下水道事業経営審議委員会を開催させていただきます。私は、事務局を務めさせていただきます。経営企画課長の山梨と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定に基づき、公開とさせていただきますので御了承願います。

まず、最初に本日の資料を確認させていただきます。

(~資料確認~)

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、金子上下水道事業管理者からごあいさつを申し上げます。

上下水道事業管理者 上下水道事業管理者の金子でございます。

皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、この経営審議委員会につきましては、委員の任期が2年となっております。本日は、新しい任期になって初めての開催でございます。委員の皆様におかれましては、委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。今後、上下水道局の所管事項について様々な御審議をいただくことになるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今回から新たに委員となられた方もいらっしゃいますので、簡単に上下水道局の概要をお話しさせていただきます。当局は水道事業、工業用水道事業及び下水道事業という三つの事業を一つの局で行っている東日本で唯一の政令市でございます。

水道事業については、約149万人の川崎市民に安全な水を供給し、工業用水道事業では、58社80工場に工業用の水を供給しています。また、下水道事業では、家庭などから出る汚水の処理に加え雨水の排除も行い、これらのインフラ事業者として24時間365日休むことなく、市民の生活や事業者の経済活動を支えています。

しかしながら、事業を取り巻く環境は大きく変化しておりまして、施設の老朽化対策や地震対策など様々な課題がございます。中長期的視点からこれらの課題を整理し、事業のあるべき姿を定めた上で各施策を計画的に進めていく必要がございます。

こうしたことから、昨年度から将来の事業のあるべき姿や方向性などを定める「上下水道ビジョン」の策定作業を進めておりまして、これまでも本委員会において、委員の皆様から多くの御意見をいただいていたところでございます。

本日は、「上下水道ビジョン」の案に加え、その実行計画でございます「中期計画」の素案も御説明させていただきます。かなりのボリュームとはなりますが、忌憚のない御意見を賜りたいと考えておりますので、御審議の程よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、よろしくお願ひいたします。

事務局

続きまして、経営審議委員会委員を御紹介させていただきます。

経営審議委員会委員の任期は要綱により、2年となっております。本日は選任後初めての会議でございますので、皆様を御紹介させていただきます。「川崎市上下水道事業経営審議委員会委員名簿」を御覧ください。

経営審議委員会の委員は、要綱により、学識経験者、各団体の代表者、公募の方に委嘱することになっておりまして、名簿は区分ごとに50音順に作成しております。名簿順に紹介をさせていただきますので、名前を呼ばれた方は、恐れ入りますが、お立ちいただければと存じます。

まず、学識経験者でございます。

公認会計士の「磯貝和敏（イソガイ カズトシ）様」でございます。

首都大学東京特任教授の「小泉明（コイズミ アキラ）様」でございます。

東京都市大学教授の「長岡裕（ナガオカ ヒロシ）様」でございます。

専修大学教授の「中野英夫（ナカノ ヒデオ）様」でございます。

青山学院大学教授の「西川雅史（ニシカワ マサシ）様」でございます。

東京大学大学院教授の「古米弘明（フルマイ ヒロアキ）様」でございます。古米様は本日欠席でございます。

次に各団体代表でございます。

川崎地域連合事務局長の「磯谷馨（イソタニ カオル）様」でございます。磯谷様も本日欠席でございます。

国際ソロプチミスト川崎 フレンドシップ委員長の「岩瀬純己（イワセジュンコ）様」でございます。

川崎商工会議所議員の「魚津利興（ウオツ トシオキ）様」でございます。魚津様も本日欠席でございます。

川崎市消費者の会副会長の「梶ヶ谷雪香（カジガヤ ユキカ）様」でございます。

川崎市全町内会連合会常任理事の「庄司幹夫（ショウジ ミキオ）様」でございます。

公募委員でございますが、

「岩瀬紀代（イワセ キヨ）様」でございます。岩瀬様は本日欠席でございます。

同じく「木村愛（キムラ メグム）様」でございます。木村様につきましても本日欠席でございます。

以上の13名の方でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、委員の任期につきましては、手元でございます委嘱状のとおり、平成28年10月1日から平成30年9月30日まででございますが、古米委員におかれましては、市の内規である委員としての通算期間が10年を超えることと、このことに伴う本人からの申し出により、上下水道ビジョン及び中期計画の審議が終了となる平成29年3月31日をもって委嘱期間満了となります。

続きまして、本日出席しております上下水道局の職員を紹介させていただきます。」

(役職名と氏名の紹介)

以上のメンバーで、これから2年間、当川崎市上下水道事業経営審議委員会を進行していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、次第4、委員長及び副委員長の選任に移ります。

要綱によりまして、委員長は学識経験者から委員の互選により定めることとなっておりますが、いかがでしょうか。

立候補者がいらっしゃらないようでしたら、事務局案として、改選前と同様に、小泉先生に委員長就任をお願いできればと存じますが、いかがでしょうか。

小泉先生、よろしいでしょうか。

小泉委員長 はい、お引受けいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは小泉先生に委員長をお願いしたいと思います。

続きまして副委員長でございますが、同じく要綱によりまして、副委員長は委員長の推薦により定めることとなっておりますので、小泉委員長、副委員長の推薦をお願いします。

小泉委員長 東京大学大学院の古米先生を副委員長にお願いしたいと思います。

事務局 はい。古米先生は、本日欠席となっておりますが、仮に副委員長に推薦された場合の合意を事前にいただいておりますので、古米先生を副委員長にしたいと思います。

ここで、委員長からひと言ごあいさつをいただければと思います。小泉委

員長よろしく申し上げます。

小泉委員長　このたび、川崎市上下水道事業経営審議委員会委員長に選任されました小泉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は新たな任期に基づく初めての委員会でございますが、議題は「上下水道ビジョン」、並びに「中期計画」についてということでございまして、前任期からの継続審議案件でございます。

前の任期から継続されている委員の皆様におかれましては、「上下水道ビジョン」について御理解いただいているところかとは存じますが、当ビジョンは30年から50年程度先の将来を見据えた川崎市上下水道局の今後の方向性を定めるものであり、「中期計画」はビジョンのアクションプランという位置付けで、両者を見れば川崎市の上下水道事業の今後の施策展開がすべてわかるというものでございます。

水道事業、工業用水道事業及び下水道事業は、いずれも社会インフラとして長い歴史と膨大な資産を有するものであり、遠い将来を見通してもその必要性や事業の基本的なシステムは、そう大きくは変わらないのではないかと気がいたします。今後は老朽化施設の更新や耐震化をしっかりと進めることと、将来の人口減少社会において、それらを如何に持続・発展させていくかということが、大きなテーマとなってくるのではないのでしょうか。

いずれにしましても、上下水道局の経営を審議する当委員会の役割は重要であり、学識経験者、団体からの推薦者、また公募委員の皆様それぞれの立場から忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。

委員会の時間も限られておりますので、あいさつは、以上とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局　委員長ありがとうございました。本日の委員会でございますが、要綱によりまして、委員長が議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては、小泉委員長よろしくお願ひしたいと思っております。

小泉委員長　それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず、議題（1）「川崎市上下水道ビジョン（案）について」説明をよろしく申し上げます。

山梨課長　では議題（1）について説明させていただきます。まず資料1、2を御覧いただきたいと思っております。

山梨課長　（資料1）「川崎市上下水道ビジョン（案）の修正検討箇所等について」
（資料2）「川崎市上下水道ビジョン（案）」についての説明

山梨課長 続きまして、資料3をお開きいただければと思います。
(資料3)「川崎市上下水道ビジョン(案)〈概要〉」についての説明

小泉委員長 どうもありがとうございました。今まで委員を継続されている先生方は、この内容についてわかっていると思うんですが、今回新しくなった方には、かなり膨大な情報なので、今日急に説明を受けてもなかなか難しいかなという思いは私もしておりますが、今日は30年から50年先という遠い未来に対して川崎市上下水道ビジョン(案)ができていて、前回の修正点を直して新たなものに仕立て上げていただいた。という点と、後半お話頂いた10年ぐらいを目途に方向性というものを少し具体的に述べていただいた。しかも、上水道、工業用水道、下水道という3水道について、しっかりとしたものを作っていた。こういう説明でございました。

特に新たな委員の先生方については、何からお聞きしてもいいと思いますので、忌憚のない御意見を頂ければと思います。ただ今の説明について何か御意見、御感想あるいは御質問などいかがでしょうか。

西川委員 西川でございませう。どうぞよろしくお願ひいたします。今30年から50年という長期を見通した上でのものを基本理念というところでうたっているというのが、このビジョンなんだろうと理解したところでございます。

そのうえで、お聞きしたいのは、市民の方が見てわかるように作っていただいた概要の5ページ目の一番右側に「10年間の方向性③ 持続可能な経営基盤の確保」についてのコラムがございます。その中の一番最後の丸のところ、「適正な料金体系のあり方の検討を含め、収支均衡を図りながら持続可能な経営基盤を確保」というところがございませう。この視点から私がお伺ひしたい点が1つございませう。

今回アセットマネジメントという言葉がいくつかでてきたんですが、今、ざっと他の資料も見させていただいたんですが、一番長期で載っているものは、これから5年先のものでございませう。通常アセットマネジメントの話だと、この後の企業債の償還のスケジュールとかこれからどれぐらいのものが維持更新のためにコストが必要なのか、まさに30年、50年のタームでどこかに描いているのかと思ったところ、見た限りそういうものが目にあたらなかったものですから、実際それがどうなっているのか伺ひたいと思います。なぜ、そのようなことを申したのかといいますと、ざっと見た範囲だと少なくとも近年については収益が黒字になりつつある。それから企業債の償還も順調に進んでいる図表がございましたので、今後上手に効率化していく過程の中で、もしかしたら上下水道の料金を引き下げることも可能になるのではないかという気がいたします。

ところが今回文面を拝見していると現状の負担のまま、あとはサービスを引き上げていきますという文章構成が多かったものですから30年50

年という長期のことですから、是非、受益者負担ということであれば、コストが下がるのであれば、料金の引き下げも考える。

このようなビジョンを打ち出されてもいいような財務状況に見えたのですけれども、この点についてもどのようにお考えなのかも教えていただきたいと思います。

山梨課長 西川先生御質問ありがとうございました。企業債含めて長期的な将来の財形が見えないという御指摘がございました。さらに場合によっては水道料金引き下げなんかもあるんじゃないか。ということだったんですけれども、今回のビジョンは長期をにらみながら10年間の方向性を出すところまででございまして、そういった観点で言いますと、30年、50年後というのは、なかなか将来見通せない部分がありますので、具体的に将来を見通して、下げるとか上げるとか明言が非常にしづらい部分はございまして、方向性の中では、適切な料金体系のあり方の検討を含めて、持続可能な経営基盤を確保ということで、仮にその時の経営状況が良ければ当然引き下げ、悪ければ値上げと、双方にも読める形でビジョンをまず一旦作っているという前提がございまして。

その前提の上で、今後の5年については、中期計画に書いておりまして、最後に説明する予定ではございますが、水道、工水、下水道それぞれ成り立ちなんかも違いがありまして、特に水道、工水で言いますと、かなり事業の歴史が古いということで、老朽化が進んでおりまして、今現在の経営状況は悪くはないんですが、今後の5年、10年を見ると大規模な施設更新が控えておりまして、水道料金、工業用水道料金、値下げはというと、なかなかそうはならない方向性でございまして。

西川委員 工水の話があったんですけど、工水が占める企業債償還費の割合はそんなに大きくなくて、実際は違うところで圧倒的にロットとして大きいわけで、工水のこの後の投資が必要だからという論理は、やや今の企業債償還の減少の理屈とかからすると、さほどレットル思考からいくと問題ではなさそうで、市民側の立場としては、少し合点がいかない部分もありそうだと思います。

しかも、5年しか示されていないもので、将来のことは、わからないから言及できないんだとすると、30年、50年基本理念なるものをなかなか検討するまたは、市民により深く正しく理解していただくものとしては、中期計画が一番詳しいんですが、これが5年のロットでしか書かれていないので、少し財政の立場からすると検討するに十分な資料があつてできたのかどうかというものが、初めて見るものですから不安に思っているというのが事実です。

小泉委員長 ありがとうございました。私も水需要予測というのを生涯研究してきたも

のにとって、やはり一寸先は闇なんですね。ところが、それでは何もできないので、やはりビジョンは立てないといけない。そういう中でどういう風にこれから考えていくのか。

この間の福岡の地下鉄工事の事故でわかると思いますが、地下には相当なライフラインが入っているので、これから色々更新していくとなればけっこうお金がかかってくるだろうし、川崎市はかつて6年間も料金値下げをしたんですね。私は絶対にそれは、反対していたんですが、6年も料金値下げして、近隣の事業者がそういうことをしないにもかかわらず、非常に努力をしてきた。そういう実績はございます。

ただ、先生がおっしゃるように将来それをどうしていくのか。こういったことは、やはりビジョンの中で色々検討できるようにしておかないといけない。このように思っておりますので、今の御指摘は記録に留めておきたいと思えます。

磯貝委員 財務体質なんですからけれども、一つ言えるのは、金利が過去においてだいぶ下がってきているんですね。金利支払いが減ってきているところが、今の借入金の返済に向かっていって、残高が従来思っている以上に減っている状態なんですね。ロングタイムで考えると、金利をどういう風に考えるかということ、30年という単位になるとどのくらいの数字がいいのかというのは、わからないので、今は金利が下がっていることよっての企業債とか借入金が減っているという実態を踏まえて、どのくらいで見たらどのくらいなのか。今、たまたま減っているというのが一つあるのかなと思えます。

もう一つは、まさしくいくら残高が正しいのかということのバランスシートっていうんですか、アセットマネジメントの方は本来これくらいあるべきだっていう残高が若干はつきりわかっていないところがあるんですね。本来これくらいあっていい場所をちょっと借入金が多すぎるんだとか少なくていいのかっていうのは、明確なバランスシートができていないので、わかっていないところがあるのかなと思うところです。

小泉委員長 ありがとうございます。その他委員の皆さん御質問、御意見ありますでしょうか。

長岡委員 本筋の内容ではないんですが、今回のビジョンとしては、わかり易くコンパクトに書かれていて読みやすいと思うんですね。それに対して概要を拝見すると、概要というよりも、詰め込んだという印象が非常に強くて、字も小さくなっていますし、絵も縮小して詰め込んでいる。概要というのは、まず市民がこういうビジョンができたんだと認識する、取っ掛かりだと思うんですね。

そういう意味でいくとちょっと概要というよりは、詰め込んでいるという印象があるので、ページ数もA3で折って4ページといったような形にして、もうちょっと内容を絞った方がいいんじゃないかなという印象があります。

例えば2ページの「基本理念」と「目指すべき将来像」は、非常にわかりやすいんですけど、こういうところを中心として、もう少し絞った方がいいのではないかという印象がありますので、ちょっと御検討いただければと思います。

小泉委員長 ありがとうございます。確かに長岡先生の御意見に私も同感でございます。これを読む市民がどれくらいいらっしゃるのかなと。読んでいただくかどうか。思いは沢山あることは理解できるんですが、沢山情報があるとやはり分散してしまいますので、今、長岡先生がおっしゃったように、少し概要版については御検討いただければありがたいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

他に委員の皆さん何かございますでしょうか。特に今回初めて委員になられた先生には、是非感想でも結構でございますので、一言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

中野委員 概要の4枚目の10年間の方向性②で「大雨・浸水への備え【安全・安心】」というのがありますが、前回も聞いたと思うんですけど、10年に1回程度の降雨にも対処できる雨水管の整備とありますが、これは一般に他の自治体と同じ基準なんでしょうか。ゲリラ豪雨で時間何ミリぐらいまで対応になっているのでしょうか。

関口部長 御質問ありがとうございます。10年に1回程度の降雨ということでございますけれども、時間雨量にして58ミリです。このあたりにつきましては、横浜の地方气象台の確率処理をしたものを使っておりまして、横浜についてもだいたい60ミリ程度です。通常の実績が時間あたり50ミリの整備ということで、東京都と一緒にございまして、全国的にも50ミリ、60ミリといった数字で目標を立てることについては、一般的でございます。

最近ではゲリラ豪雨に対応するというところで局地的な降雨に関する場合には、雨が短時間で急激に降るものですから、そういったことに対応するために重点地区を設けて、さらに高い雨水整備水準の目標をもって対応するというところを検討し始めたというところがございますので、我々としても今後そういったところを見ていきたいと思っております。まだ具体的に何ミリまでの雨に対応できるかということに対しては、決まってないんですけども、もう一つ言えるのは、雨水整備水準を一律に設定するというだけではなくて、既往最高降雨といえますか、今までに想定できる最大の降雨に対して我々に何ができるのかということの考え方に基づいた取組も進んでおります。

そういったことから、例えば地下街におきましては水位計を下水の管きよの中に設置して、その水位を基に地下街でお買い物をされている方が避難できるようなことも今後考えていきたいと思っております、そのあたりにつきましては抽象的ではあるかもしれませんがビジョンの中に盛り込んできているところでございます。

小泉委員長 ありがとうございます。最近では100ミリを超えるような雨も降りますので、そういう時の用意も大事ですし、私どもの研究室で1000ミリぐらいの水道管が破断事故を起こした時は、時間降雨量で50ミリ、100ミリを超えるようなすごい水量が漏水として出ますので、地域によっては、きちっと対応できるようなことがこれからは必要になるのかなど。

上下水道のライフラインに対して想定外という言い訳は、しない方がいいと思っておりますので、しっかりと対応をするようなことを考えて、常に危機に対して用意していくことが大事だなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そういったことがしっかりと書かれていると、私は理解しておりますのでありがとうございます。

その他の委員の皆さんは、何かございますでしょうか。今日初めて渡されて、意見を言えというのも酷なので、もし今日読んでいただいて、御質問、御意見ありましたら、事務局の方に電話なり FAX なり、あるいはメールなりで御質問等ありましたら、いつでも結構だと思ひますのでお願ひしたいと思ひます。その他はよろしいですか。

岩瀬委員 恐れ入ります。上下水道ビジョンというのは、どういう形で市民の皆さんにお知らせなさるのでしょうか。

山梨課長 上下水道ビジョンでございますが、予定では12月中旬から1月の中旬にかけてパブリックコメントという手続きをかけさせていただきます。ホームページですとか、区役所あるいは市内の行政機関などにビジョンの案を配布して、市民の皆さんに見ていただいて、意見をいただくという手続きを執ります。

そのパブリックコメントを踏まえまして、最終的には今年度中に作っていきたくと思ひますが、作った最終形につきましても、必要なところに配布したり、あるいは上下水道局でホームページを持っていますのでそこに全部掲載して皆さんに見ていただこうと考えております。

岩瀬委員 わかりました。例えば、広報でも新聞がありますよね。それには載せるのでしょうか。

山梨課長 上下水道局でも年に4回広報紙を発行しておりますので、そこにビジョンができたというお知らせをして、ホームページのアドレスなんかも入れながら見てもらえるような工夫もしたいと考えております。

小泉委員長 どうもありがとうございました。とくにこのビジョンは次世代の考え方というものが出ていますので、できるだけ若い世代の人たちに見ていただけるような努力をされるといいと思います。

やはり水道と下水道というのは、100年のオーダーで考えてもらいたい。今世紀をどうしていくのか。それがちょっとでも遅れると、後でその遅れが大きくボディブローのように効いてきますので是非しっかりしたものを作っていて、次の世代に禍根が残らないようによろしくお願ひしたいと思います。

時間の都合もございますので、続きまして議題の(2)ということで、まだ仮称ですが川崎市上下水道事業中期計画(素案)について、事務局から説明をお願いいたします。

山梨課長 では中期計画(素案)について説明させていただきます。まず資料4を御覧いただきたいと思います。

山梨課長 (資料4)「中期計画進捗状況について」の説明

山梨課長 資料5の中期計画(素案)を御覧いただきたいと思います。水道事業、工業用水道事業、下水道事業の部分、それからサービス経営部門の部分という風に分けてございますので、それぞれの担当課から説明をしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

篠田課長 (資料5)「(仮称)川崎市上下水道事業中期計画(素案)」(水道事業、工業用水道事業)の説明

中村課長 (資料5)「(仮称)川崎市上下水道事業中期計画(素案)」(下水道事業)の説明

山梨課長 (資料5)「(仮称)川崎市上下水道事業中期計画(素案)」(サービス・経営部門)の説明

小泉委員長 どうもありがとうございました。只今の説明につきまして何か御質問・御意見ございますでしょうか。

長岡委員 広範囲に、もれなく色んな施策がわかり易くまとめられているとは思いま

す。ただ、最後の PDCA サイクルのところ、それぞれの取組に対して目標があるんですけども、具体的な数値目標があるものと、曖昧なものが混在しているんですね。

例えば 5 1 ページの管路の場合は、耐震化率を明確に示していますが、施設の 6 6 ページを見ますと「老朽化をした施設を計画的に更新します」と、ちょっと曖昧な表現なんですね。もちろん全部数値目標がある訳ではないんですが、やはりチェックができるような形にしておく必要があるのではないかという風に思います。

あと、個別のところになるんですが、1 2 1 ページのサービス推進のところ、目標で「わかりやすく広報し、認知度を向上させます」と、色んな水道事業体あるいは、下水道事業体で言うんですけども、やはり何らかの形でモニターをして、認知度がどれくらいあるかという点検がないと次の施策につながらないと思うんですね。全て数値目標を出せとは言わないんですが、出来る限り点検できるような目標を掲げるべきだと思います。

山梨課長 御意見ありがとうございます。数値目標は、確かに立てられるものは立てると、その後の進捗管理がしやすい。といったことだと思います。一方でなかなか難しいところもあろうかなと思います。今の形ですとそれぞれの取組の下のところ、効果・目標というところが出ていて、非常にわかりづらい部分もあるので、全体をどんな取組に対して、どういう目標があって、それが数値で出るのか、あるいは数値で出なかったら言葉でどういう目標が立つのかというのを整理して、ちょっと今日は添付できていないんですが、1 3 9 ページに施策一覧ということで一つの表にしてわかり易く、具体的な数値目標があって、今がこうで 5 年後にはこうなるというものを付けさせていただきたいと思います。次回の 2 月の段階までには、整理して添付したいと思います。

小泉委員長 わかりました。その他に何かございますでしょうか。

中野委員 4 8 ページの「水道・工業用水道の施設・管路の地震対策」で、取り組むべき「施設の耐震化」がございまして、5 0 ページに取り組むべき「水道管路の耐震化」がございます。順番としては、施設の方が先になるんですかね。大体どういう風に決まっているんでしょうか。

亀山部長 順番はいろいろ議論したんですけども、水の流れに沿って表現した方が市民の皆様にはわかり易いと思ひまして、下水も同じような形になっています。上流側から入って、施設の耐震化があってから管路の耐震化がきてというようなイメージで表現させていただいています。

中野委員 事業費的には、やはり取組②の方が大きいんですか。

亀山部長 そうですね。実際は再構築事業でいろいろやってきて、上流の方から整備をして、これから管路に移っていきます。これからは管路の更新費用の方が大きくなっていくと想定しています。

小泉委員長 ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

西川委員 先程の長岡先生のコメントと、私も全く思ったことは同じでございまして、是非十全に気を付けていただきたいと思います。それに関して102ページに目標があって「適切な維持管理の継続実施」という言葉が書いてあるんですが、実は中身を見てみますと、想定として具体的な実施項目が入ってくるべきところだとするならば、おそらく目標は「アセットマネジメント情報システムの構築」みたいなものが目標にきて、具体的にこれをこなす、作り上げる。というのがおそらく具体的な目標になるのであろうという風に私には見えてしまいますので、そのような考え方は当然あると思います。

その上でなぜたくさんある中でその点を申し上げたかと言いますと、先程偶然にも同じページなんですけど66ページの上段を見てみますと「アセットマネジメントに基づき計画的に更新していきます」とある訳ですが、先程来私がお聞きしているところによると中長期的なアセットマネジメントをするだけの資料を川崎市は十全に持っていないという風に私からは見えてしまっているんですが、だとすると十全に持っていない資料に基づき老朽化施設を計画的に更新しますというのが、何に基づくんだろうという気がしますので、もし具体的な資料をお持ちでしたら教えていただきたいと思ひますし、実際まだ整備されていないとするならば、どこで整備されるのかについて教えていただきたいと思ひます。

亀山部長 水道事業に関しますアセットマネジメントは、当然日々の維持管理をやっています、それと併せて、施設の固定資産台帳を調べて、平成21年に既に終わらせ、更新需要がどのくらいあるかを把握しながらやっております。表現の方法はおっしゃるとおり、下水道事業と比較しますと曖昧な表現になっていますので、そこは明確にしながら進めてまいりたいと思ひます。

西川委員 今の話ですと公有財産台帳に基づいて、おそらく更新需要が中長期的に資料としてあるという風に聞いたんですけども、今現在何年ぐらいまでお持ちなのでしょうか。できれば、この資料にもあったら嬉しいと思ひますけれどもどうなんでしょうか。

亀山部長 再構築事業に入る時に全ての施設に関して台帳を調べて更新需要などを

調べてたんですけれども、この場で何年先までというのは、資料が手元に無いのでわかりませんが、浄水施設に関しては今新しいものになっていますので、新たにそこからスタートするアセットをかけていきたいと思っています。

その時期は今のところ新しいものなので、いつアセットをかけるべきか検討したいと思いますが、管路に関しては寿命などを含めて、60年サイクルで更新していくというのが答えになるかと思っています。

今後新しい施設や管路については、どのくらいの更新サイクルでいくか再度検討していきたいと考えています。今後のアセットマネジメントの進め方としては表現しきれっていませんが、そういう状況で進めているところです。

小泉委員長 ありがとうございました。また、資料等出てきましたらよろしくお願ひしたいと思います。その他よろしいでしょうか。

この中期計画につきましては、いろいろと疑問点等あるかもしれませんが、その辺については後程事務局にお尋ねいただきたいと思っています。予定事業費がまだ〇〇円と入っていますが、この辺もどういう風に入ってくるか興味津々でございまして、しっかりとしたものが2月頃に出てくるという風に考えてよろしいのでしょうか。

いずれにしても、5年の計画もしっかりしなければいけないし、最初に御説明いただいた長期的なビジョンもしっかりもたなければいけない。その両方をもって上下水道の事業というのは、やっているんだ。ということで是非よろしくお願ひしたいと思います。国は縦割りで厚労省と工水は経産省で、国交省が下水ということで3省に分かれているんですが、川崎市においては、これを一括して出来上がっている。

この委員会を長くやらせていただいておりますけれども次第に水道と下水道がだんだん融合してきて同じような表現、トーンになってきているなど思っております。是非今後とも頑張ってください。このように思っております。

では、続きまして議題（3）「今後のスケジュール」についての説明をお願いします。

山梨課長 資料6をお開きいただきたいと思っています。

（資料6）「上下水道ビジョン・中期計画策定スケジュール」についての説明

小泉委員長 どうもありがとうございます。只今のスケジュールにつきまして何か御質問・御意見ございますでしょうか。3月を目途に出来上がるということでございます。よろしくお願ひいたします。

議題は以上でございますが、皆さん何かございますでしょうか。よろしい

でしょうか。それでは、この辺で本日の会議を終了したいと思います。皆様お疲れ様でございました。事務局にマイクをお返しいたします。

山梨課長　小泉委員長どうもありがとうございました。次回の委員会でございますけれども、先ほどスケジュールの中で御説明させていただいたとおり、2月の下旬を予定しております。今回欠席者が多かったんですけれどもできるだけ多くの委員の皆様にご出席いただけますよう、明日以降、早めに日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくご協力をお願いします。本日は誠にありがとうございました。